

特別の教育課程の編成方針等について

1. 特別の教育課程の概要及び編成方針

本市では、平成24年度より、小学校第1学年～中学校第3学年において小中9年間の一貫した英語教育を行っている。グローバル社会に対応し国際社会で生きる力を身に付けるために、小学校第1学年～6学年において、教科「英語科」を設定し、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指し、特別の教育課程による指導を実施している。

現在、1学年は生活科を34時間、2学年は35時間を削減して英語科に充てている。また、モジュールプログラムによる英語科を1学年は34時間、2学年は35時間の増設をし、45分の授業の中で学習した内容について、短い時間の中で、楽しみながら繰り返し英語の音声に慣れ親しめるようにしている。

3、4学年は、総合的な学習の時間35時間と外国語活動の計70時間を削減して英語科に充てている。この内35時間をモジュールプログラムによる英語科に充て、音声と綴りを関連付けるための「読むこと」「書くこと」の活動を行えるようにしている。

5、6学年は英語科を45分の授業として70時間実施し、1～4学年までの英語科での学びを生かした体系的な学習を行っている。身近な事柄について扱う言語活動や音声及び発音と綴りとを関連付ける指導を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するとともに、中学校へのより円滑な接続を目指している。

2. 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成する必要性

本市では、英語教育の目的は、子どもたちが全人的に成長し、グローバル社会において主体的に生きていく資質や能力を身につけることであると考えている。そこで、単に能力や技能といったスキルの習得だけではなく、コミュニケーションの体験を通して、異文化を理解し、国際社会に貢献できる児童・生徒の育成することを目指している。

そのため、平成18年度より、全小学校において英語活動に取り組むとともに、中学校では小学校英語との接続を踏まえ英語指導の充実を図ってきた。また、平成21年度から23年度にかけて文部科学省の指定である「教育研究開発事業（英語教育関係）」に取り組み、指定中学校区内の小中学校3校において、小中9年間のつながりを重視したカリキュラムを開発、策定し、英語によるコミュニケーション能力の育成を図った。平成24年度には指定地域、平成25年度からは市内すべての小学校における第1学年～6学年で、教科「英語科」を取り入れた独自の教育課程を実施している。

3. 特例の適用開始日

令和2年4月より

4. 取組の期間

令和12年3月まで



坂東太郎



第2回 学校評価の結果を受けて ～ 3学期の取り組み

保護者の皆様には、2学期末に学校評価アンケートにご回答いただきありがとうございました。このたび、保護者・児童・教職員による評価を総合して、認められる成果や課題がまとまりました。

これから学校では、残された課題の解決に向けて下のような考えで取り組み、引き続き「**仲間とともに自分を高める子**」の育成を目指します。ご家庭のお力が必要な事もあります。ぜひご協力をお願いいたします。

下欄の児：児童(4～6年) 保：保護者(全体) 職：職員	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う+大体そう思う 今回 前回
------------------------------	------	--------	-----------	--------	----------------------

I 保護者との連携

保	学校は、連絡メールやホームページ、学校だより、学年だより、三者面談等により学校の取組や児童の様子を伝えたり、保護者に家庭学習やボランティアへの協力を呼びかけたりして、家庭と連携して教育活動を進めている。	54%	38%	8%	1%	92%	94%
職	連絡メールやホームページ、学校だより、学年だより、三者面談等により学校の取組や児童の様子を伝えたり、保護者に家庭学習やボランティアへの協力を呼びかけたりして、家庭と連携して教育活動を進めている。	62%	31%	7%	0%	93%	97%

II 確かな学力

児	授業の内容がだいたいわかっている。	56%	39%	3%	1%	95%	95%
保	お子さんは、学習の内容がだいたい分かっている。	46%	41%	11%	2%	87%	86%
職	学習のめあてとまとめを板書で明らかにしている。	41%	55%	3%	0%	97%	97%
職	授業にあたって、指導のねらいと身に付けさせたい基礎的・基本的事項を明確にして指導している。	59%	41%	0%	0%	100%	100%
児	英語の授業では、歌を歌ったりクイズをしたり、思ったことを英語で表現したりして楽しい。	51%	33%	11%	5%	84%	82%
職	英語の授業で、音声やリズム、文字に慣れ親しませ、伝え合う楽しさや自己表現できたという達成感や成就感を感じられるようにしている。	63%	33%	4%	0%	96%	93%
児	宿題を自分からしている。	64%	25%	6%	4%	89%	84%
保	「赤ペン先生の日」の取組で、お子さんの学習の様子が分かり、励ますことができる。	49%	37%	12%	1%	86%	86%
職	家庭学習カードを活用したり、赤ペン先生の協力を得たりして、保護者と連携し、児童が学習や読書に取り組めるようにしている。	45%	45%	10%	0%	90%	96%

英語学習に楽しく取り組み、発音やリズム、文字に親しんでいる姿が見られます。専科教員による指導の成果の表れです。3学期も、学習がわかる喜びや、できるうれしさを大いに実感できる授業を進めます。学年のまとめもしっかり行います。学び漏れが生じないように、宿題も毎日出します。ご家庭でも、がんばりを認めながら、家庭学習が習慣づくよう励ましてください。

III 豊かな心

児	自分から進んであいさつしている。	45%	36%	16%	3%	81%	80%
保	お子さんは、進んであいさつしている。	37%	44%	17%	2%	81%	82%
職	児童は進んであいさつしている。	7%	62%	31%	0%	69%	83%
児	仲間に思いやりのある言葉(ふわふわ言葉)をかけたり、困っている人を手助けしたりしている。	34%	51%	14%	0%	86%	83%
保	お子さんは、人を思いやる言動ができる。	47%	44%	7%	2%	91%	92%
職	いじめアンケートや日常の児童の観察をとおして、いじめの未然防止、早期発見・解消に努めている。	66%	34%	0%	0%	100%	100%

寒さに手も体も凍えそうな季節、マスクもあって、あいさつの声は余計に小さくなりがちです。児童会のあいさつ隊は「笑顔で・相手の目を見て・元気よく・自分から」「笑顔と元気のキャッチボール」を合い言葉に、毎朝声かけをがんばっています。気持ちのよいあいさつをする子どもには「あいさつ大賞」が贈られます。

児	なかよしタイムでいろいろな学年の仲間と楽しく遊んでいる。	61%	30%	6%	2%	91%	88%
保	「なかよしタイム」や各種の校外学習などで、体験の機会が充実したり、子どもどうしのかかわりが豊かになったりしている。	57%	37%	5%	1%	94%	90%
職	各種の校外学習や「なかよしタイム」等で、体験の機会が充実したり、児童同士のかかわりが豊かになったりしている。	62%	38%	0%	0%	100%	97%

「なかよしタイム、次はいつ？」と、楽しみにしている子どもがたくさんいます。仲間との豊かなかかわりの成果は、「坂東小体育の日」の連帯感にも表れていました。

IV 健康・体力

児	朝ごはんを食べてから、学校にきている。	85%	9%	3%	2%	95%	94%
児	運動したり、校庭で遊んだりする日が、週に3日以上ある。	47%	20%	15%	19%	59%	67%
保	お子さんは「早ね・早起き・朝ごはん」で、リズムを保って生活している。	42%	36%	16%	6%	78%	78%
職	児童は「早寝、早起き、朝ご飯」で、リズムを保って生活している。	70%	72%	28%	0%	72%	77%

子どもも認めるとおり、運動不足の傾向です。運動能力の低下や肥満の傾向も明らかです。なわとびやジョギングなどで、みんなで楽しく運動できる機会を増やします。
特にこの時期は、夜更かしから体の免疫力が下がって風邪などひかないよう、家庭でも助言をお願いします。

児	新型コロナウイルス感染症を防ぐために、校舎内ではマスクをつけ、手洗いや消毒をていねいにしている。	64%	31%	3%	1%	95%	94%
児	家庭でも手洗いをていねいにしたり、必要な場面でマスクをつけたたりして、感染症防止に気を付けている。	59%	31%	7%	2%	90%	90%
保	お子さんは、家庭で手洗いを丁寧に行ったり、必要な場面でマスクをつけたたりして、感染症防止に気を付けている。	69%	24%	6%	1%	93%	94%

感染の不安がまた高まってきました。学校では基本的な防止策を引き続き徹

V 安全確保・施設設備

児	火事や地震が起きたとき、不審者が来たときのひなの仕方がわかっている。	70%	23%	5%	2%	93%	92%
職	火事や地震が起きたとき、不審者が現れたときの、児童の避難のさせ方や職員同士の連携の仕方が分かっている。	41%	59%	0%	0%	100%	90%

児	交通ルールを守って、自転車に乗ったり歩いたりしている。	78%	20%	1%	1%	98%	96%
保	お子さんは、交通ルールにしたがい、正しい歩き方や自転車の乗り方をしている。	51%	43%	4%	2%	94%	92%
児	通学路の危険な場所や、地震など災害の時のひなの仕方にについて、家の人と話している。	33%	34%	21%	13%	66%	57%
保	家庭で、通学路の危険箇所や緊急時の対応について話している。	40%	36%	18%	6%	76%	80%

危険な場所がわかること・気づくことは、交通安全に加え、防犯の面でも、子どもが自分の身の安全を守る力や態度を養うことになります。

VI 進路・生き方

児	「大人になったら何になりたい。」「こういう生き方をしたい。」というゆめや目標をもっている。	64%	21%	10%	5%	85%	85%
保	家庭で、お子さんの将来の夢や目標について話している。	65%	6%	24%	4%	71%	79%
職	学年に応じたキャリア教育をとおして、児童一人一人に夢や目標をもてるようにしている。	4%	79%	7%	0%	93%	93%

新年にあたり、お子さんはどんな目標を立てましたか？
大人はみな知っています。いくつもの小さな目標を実現した先に、大きな夢が生まれることを。子どもが目標をもって進もうとする姿、大切に育みたいですね。

VII 組織・運営

保	子どもの学習や活動が充実するよう、ボランティア活動に協力している。または、都合がつけば協力したいと考えている。	27%	47%	20%	6%	74%	76%
職	ボランティア人材等、地域の教育力を活用し、学習やその他の活動の質を高めている。	28%	59%	14%	0%	86%	93%

コロナ禍で制約がある中でも、ボランティアのおかげで、児童の活動の場が広がり、個に応じた学習活動が実現しています。今後も